

第6学年 総合的な学習の時間の実践

1. 単元名 「夢に向かって進もうプロジェクト～仕事の魅力を伝えよう～」

2. 単元の目標

○夢に向かって進もうプロジェクトを通して、課題解決をするための学習の流れを理解し、それぞれの学習についての技能を身につけることができる。 【知識・技能】

○仕事の魅力について複数の視点から調べた情報を取捨選択し、意図や目的に応じて自分の主張をまとめ、説明することができる。 【思考・判断・表現】

○仕事の魅力について調べて考えたことを伝える活動を通して、将来の生活に希望をもち、自分の目標に向かって、進んで努力しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

3. 学習活動について

(1) 児童について

(一部省略)

平成30年度全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、「どちらかといえば、当てはまらない」と答えている児童は、県や全国に比べて割合が高くなっており、「当てはまらない」と答えた児童も合わせると、本校児童の4人に1人は、夢や目標が持っていないということがわかった。

平成30年度全国学力・学習状況調査 児童質問紙 (3)「将来の夢や目標を持っていますか」				
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
本校	55. 3	21. 1	<u>21. 1</u>	2. 6
島根県	66. 9	17. 7	8. 8	6. 5
全国	68. 2	16. 9	8. 6	6. 2

ICT 機器の利用状況は、教室に設置されたプロジェクタや実物投影機を使っの ICT 活用は日常的なものとなっており、児童がノートやワークシートなどを大きく映したり、そこにマーカーなどで書き加えたりしながら説明をする姿は、様々な授業場面でも見ることができる。

タブレット端末は、グループや個人でインターネットを活用して調べる際に用いたり、画像の撮影や録画機能などを使って画像や動画を保存したりして学習で活用している。また、プレゼンテーション用アプリを利用して発表するときは、言葉だけで発表するのが苦手な児童も、ICT 機器の助けを借りて、堂々と話すことができている。

(2) 単元について

児童は、5年生までに総合的な学習の時間を通して、人とのつながりや地域とのかかわりの大切さを実感し、人や地域のために自分ができることを考え実行してきた。

今年度は、小学校卒業の節目を迎えるにあたり、将来の自分のことを考える時間を持ちたいと考えた。そこで、自分のよさに気づき自分にはいろいろな可能性があること、そして、世の中には様々な仕事があり、仕事の魅力ややりがいについて、調べて考えたことを伝えることで、児童一人一人が将来の夢や希望を見つけ、それを叶えるために、これからの目標を明らかにし、目標に向かって進むことができることを期待し、この単元を設定した。

第一次の「パーソナルポートフォリオを作って未来の自分に生かそう！」では、まず、パーソナルポートフォリオの作り方について知る。パーソナルポートフォリオとは、「自分の作品ファイル」という意味があり、自分の好きなものや自分が伝わるものを入れていくファイルである。自分の好きなことや得意なことをファイルに入れ、ポートフォリオを紹介し合う活動を通して、自分や友達のよさに気づくことができるようにする。

第二次の「どんな仕事があるか調べよう」では、自分たちの知っている仕事を振り返ったり、書籍やインターネットで調べたりすることで、世の中には多くの仕事があることに気づかせたい。また、身近な人や、夏休みに出会った人に仕事についてのインタビューをし、仕事や働いている人の思いに触れさせたい。

第三次の「関心のある仕事の魅力を調べて伝えよう！」では、児童の関心をもとに、チーム編成をし、チームで仕事の魅力について調べる。調べ学習を通して、仕事内容や必要な資格など、知識を深めたり、小学生の今、何をしておくべきか考えたりすることで、自己の将来についての関心を高めたりすることができるようにする。調べたことや考えたことを提案としてまとめ、近隣の小学校6年生に、夢や目標を見つけるのに役立ててもらおうためのプレゼンテーションの場を設定する。

第四次の「わたしの未来計画をつくろう！」では、チームで学習してきたことを生かして、個人で「なりたい仕事新聞」を作成する。その新聞や、パーソナルポートフォリオで集めてきたものや、本単元で学んだことをもとに、今後の自分自身の生活設計「わたしの未来計画」をつくる。将来の夢などにあわせ、「〇年後(△才)のときに～をする。」というような具体的な計画を立てることで、自己の将来への希望を持ち、将来に向けて小学生の今から努力しようとする意欲を高めることができるようにする。「わたしの未来計画」は、小学校生活最後の授業公開で、友達や保護者に、将来の夢や今がんばることを宣言する。

(3) 指導にあたって

【研究の視点(1) ①教材・学習課題との出会いの場の工夫】

- ・課題解決のために、個人(第1次・2次)からチーム(第3次)へ、再び個人(第4次)へと、児童が学習に興味関心を高め、意欲的に取り組めるように単元構成を工夫する。

【研究の視点(1) ②ねらいや学習課題、学習の流れの明確化】

- ・第三次の「関心のある仕事の魅力を調べて伝えよう！」では、主体的に学習に取り組むために、近隣の小学6年生に職業の魅力を伝えるというゴールを設定する。その相手にわかりやすく伝

えるために、どんな情報が必要かを考えながら、チームそれぞれに計画を立てて役割分担をして、学習を進めていく。

- チームで学習を進めていく際には、「アクションシート」を使う。必ずその日の目標を書いたから活動を行う。目標を明らかにすることで、学習する意志をしっかりともつことができる。

【研究の視点（１） ③まとめや自己評価・相互評価による振り返りの場の設定】

- 第三次で使用する「アクションシート」の自己評価欄に毎回記入をする。授業の終わりに今日の自分を振り返り、授業の始めに書いた「今日の目標」と、その日の活動の「成果」を照らし合わせ、自分で評価する。目標にしていたことは達成できたか、この活動でつかったことは何かなどを簡潔に書くことで、次の授業に活かすことができる。
- 第四次「わたしの未来計画を立てて宣言しよう！」では、第一次から第三次までの学習のまとめとして、未来の生活設計を立てる。将来の夢などにあわせ、「〇年後（△才）のときに～をする。」というような具体的な計画を立てることで、自己の将来への希望を持ち、将来に向けて小学生の今から努力しようとする意欲を高めることができるようになると思う。

【研究の視点（２） ①個人思考を深める手立てや位置づけの工夫】

- 第一次で、自分でパーソナルポートフォリオをなかなか作ることができない児童が、作ることができるように、パーソナルポートフォリオの中間発表会を行う。友達の発表を見るのがヒントになり、また、今自分が困っていることを発表の場で伝えることによって友達からのアドバイスがもらえると考える。
- 第三次でのプレゼンテーションの発表で、よい点やもっとこうしたらよいと思う点を見つけることができない児童には、プレゼンテーションのコツの一覧表を渡し、照らし合わせてチェックができるようにする。
- 第四次からは個人作業で進めることになるため、前単元までに学習した内容を掲示したり、タブレットに画像として保存したりすることで、これまでの学習内容を想起することができるようにする。

【研究の視点（２） ②ペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫（思考過程の共有化）】

- 第三次では、よい考えを導き出すために、その仕事に関心をもつ４～６人のチームを作って活動する。自分の持っている情報やその情報を基にした自分の考えを説明する機会があることで知識が習得され、それらの情報がたくさん集まることで、多様なアイデアや視点を組み合わせる等の相互作用の中で、チームの考えが練り上げられていくと考える。

【研究の視点（３） ①情報収集、整理分析場面でのタブレット端末の利用】

以下のようなタブレット端末の活用が考えられるが、本や紙等のアナログが望ましい場面もあるので、必要に応じてICTを利用するような選択する機会を設定していく。

<インターネット>

職業の仕事内容や必要な職業、どんなよさをいかすことができるかについて調べるときには、

職業を調べるための公式サイトを活用する。

【研究の視点（3） ②グループ学習での共同学習ツールとしてのタブレット端末の活用】

チームに1台のタブレット端末を持たせ、情報の検索や、写真や動画を保存して利用させる。チーム内で相互に教え合い、考えを交流し合うことで、学習内容を深めることができる。

【研究の視点（3） ③発表場面で、根拠資料としてのタブレット端末の利用】

プレゼンテーションの場面では、相手にわかりやすく伝えるために、ツールとしてICT機器を活用することが考えられる。画像や動画を使ったり、ロイロノートでプレゼン資料を作ったり、各チームで工夫してプレゼンを行うことができる。

<ロイロノート>

発表したい画像や資料などをつなげて、スライドとして紹介することができるため、スライドの順序が見やすく、簡単にプレゼンテーションをつくることができる。書いたり、要約したりすることが難しい児童には、写真を中心にして、プレゼンテーションをつくることで、自分の考えたことを意欲的に発表することができるようにする。

4. 本単元で身につけたい力

- ・自分の意見を整理し、相手にわかりやすく伝える力
- ・課題解決に必要な情報を取捨選択し、まとめたことを発表する力

5. キャリア教育の視点

将来の夢や希望をもち、実現をめざして努力しようとする。（キャリアプランニング能力）

6. 指導計画と評価計画（全29時間 本時18時）

基本フェーズ展開

準備

次	時	主な学習活動	評価			
			知・技	思・判・表	態度	主な評価規準
一 「パーソナルポートフォリオを作ってみよう」 「未来の自分に生かそう！」	1	・パーソナルポートフォリオの作り方を考える。 ・グループでお互いに「〇〇さんのいいところ発見カード」を書き、友達のいいところを教え合う。			○	態：パーソナルポートフォリオについて知り、将来のめざす仕事を見つけるために、資料を集めたり、自分の個性を発見したりしようとする意識をもとうとしている。
	2	自分の作っているパーソナルポートフォリオを、友達に発表する。			○	態：自分にとって興味・関心があることを、伝えようとしている。
二 「どんな仕事があるか調べよう」	1	世の中にあるいろいろな仕事について調べる。	○			知：世の中には様々な仕事があることがわかる。
	2					
	3	仕事を分野ごとに分ける。		○		思：探し出した仕事か、どんな分類になるか考えている。
課外		身近な人に仕事についてのインタビューをする。				

テーマ・
ゴールの
設定

計画

情報リサ
ーチ

制作

プレゼン
テーショ
ン

再構築

成長エ
ントリ
ー

三「関心のある仕事の魅力を調べて伝えよう！」	1	自分のテーマとゴールを決める。 ・テーマ「〇〇のために□□したい」 ・ゴール「〇〇を△△する。」		○		思：自分なりの思いや願いをもって、課題（自分のテーマ）を作っている。
	<p>共通テーマ：将来の夢について他校の6年生に考えてほしい！ 共通ゴール：小学生がつくる小学生のための「仕事の魅力と実現するために今すべきこと」を提案します！</p>					
	2	チームを作り、活動の計画を立てる。		○		思：計画、分担の話し合いをチームで協力して行おうとする。
	3					
	4 5 8	情報を集めたり、調査したり、活動したりする。 ・インタビューや見学による取材、実際の体験や調査をする。 ・図書資料やインターネットから必要な情報を見つけ出し、情報カードにまとめる。		○	○	思：必要な情報を自分なりの方法で工夫して収集している。 思：いろいろな人と進んで関わり、相手の願いや思いを知り、大切にしようとしている。 態：友達と協力して活動しようとしている。
9 10 11	方法を工夫しながら提示資料（プレゼンの資料）を作る。		○		思：情報収集の成果をわかりやすくまとめている。	
12 13 本時 14 15	表現を工夫して発表する。 ・プレゼンの準備をする。 ・プレゼン発表会をする。（本時） ・プレゼン内容を修正する。 ・近隣の小学校6年生にプレゼンをする。		○		思：表現を工夫して、わかりやすく発表しようとしている。 思：よい点やもっとこうしたらよいと思う点を見つけ、伝えている。	
四「わたしの未来計画を立てて宣言しよう！」	1 2 4	なりたい職業新聞を作る。		○		思：将来どんな職業に就きたいか考えようとしている。
	5 6	・プレゼンテーションや、パーソナルポートフォリオ、職業新聞をもとにして、わたしの未来計画書を作る。		○		思：今までに学習したことをまとめ、自分らしく考えたことを組み立てて根拠ある計画書を作っている。
	7 8 9	表現を工夫して発表する。 ・宣言の準備、練習をする。 ・わたしの未来計画を宣言する。 ・お世話になった人に、学習の成果を伝える。		○	○	思：表現方法を工夫して、わかりやすく発表しようとする。 態：将来の自分の目標に向かって、進んで努力しようという気持ちをもっている。

7. 本時の学習

(1) 目標

- 職業の魅力を手にはっきり伝えるために、効果的な表現を工夫して、わかりやすく発表することができる。 【思考・判断・表現】
- 他のチームの発表を聞き、よい点やもっとこうしたらよいと思う点を見つけ、伝えることができる。 【思考・判断・表現】

(2) 展開

	学 習 活 動	教師の支援 (○)・評価 (【 】) ICT活用
つかむ	1. めあての確認をする。 ○アクションシートに今日のめあてを書き、活動内容を意識できるようにする。	○学習の見通しをもたせるために、授業の流れとめあてを確認する。(T1)
追究する 深める	2. 各チームの発表 (各10分) ・実際の発表 (5分) ・ふせんにコメントを書く (2分) ・コメントを発表し合う (2分) ・移動 (1分) ※この活動を3回行う。	○10チームを3つに分けて行う。観客の呼び込みや発表の進行をチームで行わせることにより、プレゼンへの意欲をもたせる。(T1 全体指導, T2 進行に困っているチームの支援・指導, T3 9組児童を中心に支援・指導する) プレゼンテーションの発表で効果的な場面で活用する。(タブレット) 【思考・判断・表現】 ・仕事の魅力をはっきり伝えるために、表現方法を工夫してわかりやすく伝えることができる。 ・発表を聞き、よい点やもっとこうしたらよいと思う点を見つけ、伝えることができる。(行動観察、発表、アクションシートの記述)
まとめる	3. まとめをする。 ・発表 (7分)	○他のチームにアドバイスしたこと(よい点やもっとこうしたらよいと思う点)や、プレゼンをした感想などの意見を発表し合うことで、各自の振り返りがしやすいようにする。(T1 T2 板書)
ふり返る	・アクションシートへの自己評価の記入(3分)	○今日の学習を振り返って、自分がわかったことや考えたこと、思ったことを書くようにする。(T1)

(3) 評価

評価の観点	十分満足と思われる児童の姿	概ね満足と思われる児童の姿	支援が必要な児童への手立て
思考・判断・表現	・効果的な表現を工夫してわかりやすく主体的に発表している。 ・よい点やもっとこうしたらよいと思う点を根拠や理由をもって言うことができる。	・効果的な表現を工夫してわかりやすく発表している。 ・よい点やもっとこうしたらよいと思う点を見つけて言うことができる。	・効果的でわかりやすい発表をしたかどうかかわからない。 →よい点やもっとこうしたらよいと思う点を伝え合わせることでよりわかりやすく発表するためにどうしたらいいか考えることができるようにする。 ・よい点やもっとこうしたらよいと思う点を見つけない。 →プレゼンテーションのコツの一覧表を渡し、照らし合わせてチェックができるようにする。

(4) 研究の視点

ICT 機器を発表のツールとして提示したことは、効果的な表現をわかりやすく工夫して発表するのに有効であったか。

8. 指導の実際と考察

(1)【研究の視点(1)】

①教材・学習課題との出会いの場の工夫

課題解決のために、単元構成を、個人で課題追究(第1次・2次)をし、チームで情報共有やアドバイスをし(第3次)、さらに再び個人で整理やまとめ、課題の再構築(第4次)をする形にした。第1次、2次の個人でポートフォリオを作ったり、自分が関心のある仕事を調べたりする活動では、次々とパーソナルポートフォリオの内容を増やしていったり、どんな仕事があるのかを次々と調べたりしていく児童がいたら、全く進まない児童もいた。第3次のチーム活動を経た第4次の活動では、どの児童も課題を自分なりに整理し、まとめる活動に意欲的に取り組む姿が見られた。

②ねらいや学習課題、学習の流れの明確化

この単元では、みんなの前で堂々と自分の考えを言える力をつけるために、仕事の魅力のプレゼンテーションをすることを中心的な活動に位置付けた。相手は、町内の斐伊小学校6年生とした。斐伊小の6年生は、5年時に一度の交流活動と、陸上大会で顔を合わせる程度で、数人知っている児童がいる程度の顔見知りである。同じ中学校に行く相手ではあるが、一緒に学習した経験はない。プレゼンテーションをする相手を伝えたときに、児童は「えー」という声を上げていた。他校の児童に、説得力のあるものや相手が驚くようなものをプレゼンテーションしなければならないと、ハードルが高くなったからだと考える。相手に、聞いて役に立ったと思ってもらうために、どんなことを調べて発表するのか、相手意識をもち、活動を進めていくことができた。小学生が知りたい情報が何かを考え、書籍やインターネットで調べ、それだけではわからない情報を調べるために児童自ら取材先を探して、電話やFAXをしたり、職場へ見学依頼の電話をかけたりした。職場見学や、インタビュー(資料①)などでは、たくさんの質問をし、多くの情報を得ることができた。



(①電話でインタビューをする様子)

工程表			
日付	調べること	分担	進捗状況
	仕事や内容	稲垣の菜	
	なるまで	未来	
	かきとること	莉音	
	本業以外の仕事	莉音	
	ヘアアレンジ	田嶋の菜	
	ヘアアレンジ	莉音	
	おまかせ	田嶋の菜	
	おまかせ	莉音	

(②時間内に役割分担ができたチームのアクションシート)

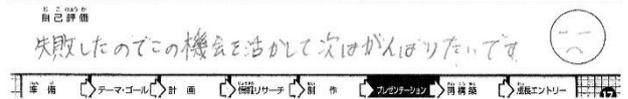
チームで活動を進めていくときには、アクションシートを活用した。授業の始めに目標を掲げたことで、その日の課題が明らかになり、活動をスムーズに進めることができたチーム(資料②)が多かった。しかし、上手に進めることのできなかったチームもあった。

【③まとめや自己評価・相互評価による振り返りの場の設定】

学習を進めていく際に、アクションシートを使った。授業の最初に今日の目標、授業の終わりに自己評価を記入した。それにより授業の中で何を考えたのかが明確に書けるようになってきた。また、次の時間への課題を見つけて記入する児童(資料③)もい

た。しかし、活動の時間確保したいがために、アクションシートを使わないこともたびたびあった。

(③児童の振り返り)



(2)【研究の視点(2)】

①個人思考を深める手立てや位置づけの工夫

当初は、プレゼンテーションを見るときの手立てとなるように、支援が必要な児童に「プレゼンテーションのコツ一覧表」(資料④)を配布する予定だったが、どのようにプレゼンすべきか迷う児童が多かったため、プレゼンテーションの練習で、児童全員に配布した。プレゼンテーションの練習を繰り返し行う中で、「コツ一覧表」を見ながら練習する姿が見られた。本時では、友だちのプレゼンテーションを見終わった後の感想発表場面で、プレゼンテーションのコツができていたかどうかの発言が多かった。

プレゼンテーションのコツ	
チーム名()	
<input type="checkbox"/>	わかりやすい言葉を使っていたか
<input type="checkbox"/>	話は聞きやすかったか
<input type="checkbox"/>	聞き手を見て話していたか
<input type="checkbox"/>	スライドや資料は見やすかったか
<input type="checkbox"/>	スライドや資料を指したり 身振り手振りを入れたりして話していたか
<input type="checkbox"/>	スライドや資料の 提示のタイミングはよかったか

(④コツ一覧表)

②ペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫(思考過程の共有化)

チームは、その仕事に関心をもつメンバーを集めて編成した。4~6人でのチームを想定していたが、関心のある職業が多岐に渡ったことで、2人や3人の少人数のチームが4チームできた。(資料⑤) 大人数のチームは、多様な発言から考えを練り上げることができていたが、少人数のチームでは、情報の少なさから内容が乏しい

チーム名	職業名	キャッチフレーズ	人数	ICT
1 スポーツ	プロスポーツ選手	常に選ばれし者の仕事	5人	スライド iPad
2 保育士	保育士	かわいい子どもたちにめくまれる仕事	6人	スライド iPad
3 公務員	警察、検察など	社会の問題を解決する仕事	4人	スライド iPad
4 パティシエ	パティシエ	人の幸せをつくる仕事	5人	スライド iPad
5 TV	声優	耳を幸せにしてくれる仕事	5人	画用紙
6 医師	内科医・外科医	人の命が救える数少ない仕事	2人	スライド iPad・模造紙
7 看護師・薬剤師	看護師・薬剤師	今一番人気のある仕事	4人	スライド iPad・画用紙
8 乗り物	鉄道運転士、電車運転士、船舶操縦士	空を飛び、楽しませる仕事	3人	スライド iPad
9 美容師	美容師	笑顔あふれる明るい仕事	3人	スライド iPad・画用紙
10 IT	パソコンエンジニア	日本の未来を支える仕事	2人	スライド iPad・模造紙

(⑤チーム編成表)

ことや、一人が休むと作業が滞ってしまうなど、活動が進まない場面が見られた。

(3)【研究の視点(3)】

①情報収集、整理分析場面でのタブレット端末の利用

情報収集では、情報リサーチの取りかかりとして、ブックリスト(資料⑦)を配布し、関連書籍を教室前に展示(資料⑥)した。また、書籍と併用してインターネットを利用させた。初めにおすすめのホームページを2つ紹介した。また、ホームページの見方や目的に応じた検索の仕方を伝えた。児童はそこから検索をどんどんしていき、「航海士になるための必要な資格」や「美容師のカット以外の仕事内容など、自分たちが調べたい職業の内容などを調べていき、たく

(⑥関連書籍の展示)



さんの情報を得ることができた。また、プレゼンテーションをする際、より説得力をもたせるために必要な画像を引用することもできた。しかし、検索していく中で、実際の手術動画を見つけて視聴するなど、小学生にふさわしくないものを調べている児童もいた。

職場見学や、インタビューでは、タブレット端末を持ち出し、取材で活用をした。「パティシエ」チームは、画像では伝わりにくい、ケーキに生クリームを乗せたり、飾ったりしていく様子を動画で撮影し、プレゼンテーションでも活用していた。

(⑦ブックリスト)

職業調べ 本リスト 斐伊小学校

番号	書名	出版社	どんな情報が調べられるか	備考
ア	職場体験学習に行ってきました。1人を支える仕事	学研	飲食・教育	全日本学校連 事務局
イ	職場体験学習に行ってきました。2からだ心をやさ仕事	学研	医師・看護師	全日本学校連 事務局
ウ	職場体験学習に行ってきました。9メディアの仕事	学研	テレビ局	全日本学校連 事務局
エ	職場体験学習に行ってきました。11食べ物をつくる仕事	学研	パティシエ	全日本学校連 事務局
オ	「釘き」から見つけるなりたい職業ガイド	EDP	多岐	EDP事務局
カ	しごとば	ブロンズ社	自動車整備士・新幹線運転士 美容師・パティシエ	調べた資料
キ	続しごとば	ブロンズ社	プロ野球選手	調べた資料
ク	続々しごとば	ブロンズ社	普通車・大工	調べた資料
ケ	ただいまお仕事中	学研	美容師・医師・着せぬ アウター・プログラマー 菓子・働き方など	近所まで
コ	夢をかなえる職業ガイド	学研	パティシエ・造園家・美容師 アナウンサー・警察官 教師・看護士・漫画家・公務員 士・運転士・農家・公務員	PPP事務局
サ	クレヨンしんちゃんのおいしいお仕事図鑑	双葉社	プロ野球・プロサッカー 職員の超絶選手・警察官・大工 美容師	調べた資料
シ	めざせ、あなたがやりたい仕事 タレント・歌手・声優・スポーツ選手	ホブナ	プロ野球・プログラマー	近所まで

②グループ学習での共同学習ツールとしてのタブレット端末の活用

情報収集のために検索をしたり、写真や動画を保存したりするために、チームに1台のタブレット端末(資料⑧)を持たせ、利用することができるようにした。それにより、画像や動画などの情報を一か所に保存し、プレゼンテーションの資料作りに生かすことができた。また、チーム内で相互に情報や考えを教え合ったり、交流し合ったりすることで、学習内容を深めることができるようにもした。



(⑧タブレット端末を中心にして、活動が進んでいる様子)

③発表場面で、根拠資料としてのタブレット端末の利用

プレゼンテーションの場面では、相手にわかりやすく伝えるために、10チーム中9チームがロイロノートでプレゼンテーションの資料を作った。(資料⑨)。しかし、どんな資料にするかを考えずにタブレットを使っているチームが多く、資料作りには、予想以上に時間がかかった。



(⑨ロイロノート)

プレゼンテーションソフトを使わずに発表した方が、よりよく伝わると考えた1チームは(資料⑩)、一度プレゼン資料をロイロノートで作ったが、発表の仕方を変更した。

発表を見た斐伊小学校の多くの児童が、発表の内容はわかりやすかったと書いていた。(資料⑪)

プレゼンテーションソフトを使わずに発表した方が、よりよく伝わると考えた1チームは



(⑩紙に書いた資料を提示してプレゼンする様子)

(⑪他校6年生の感想)

グラフィックデザインを学ぶのは、大変でした。しかし、プレゼンテーションなどの説明していたのですごくいいプレゼンなど思いました。多岐さんのプレゼンでは、画像を使わずに絵と実際の声をかけて説明していたのですごくいいと思います。ほくは全体をおして、この班も資料をうまく使って

わたしは、看護師、兼さい師についてのプレゼンと「保育士のプレゼン」と「命を預かる仕事」の3つのプレゼンを見ただけとどのチームもイラストやパワーポイントなどを使ってわかりやすかったです。その他のチームもとても自信をもって説明している声が聞こえてきてすごいなたくさん練習したんだということが伝

ました。プログラマーやゲームプログラマー、ネットワーキング、CAD技術者が、出てきたけど、ほくはプログラマー、ゲームプログラマー、ネットワーキングは初めて、たけは、CAD技術者がなにかあからなかつたけど、説明も、スライドも使ったので、すごくわかりやすくて、他の3つも、くわしく知れたので、よかったです。

(4) 成果と今後の課題

単元構成を工夫したことは、個人で活動ができにくい児童にとって、考えを練り上げていく体験をし、自分の活動に生かせるという点でとても有効だった。しかし、チームでの活動に時間がかかりすぎたため、本時でやるべきことを児童が明確に把握したり、方向性をきちんと考えてから活動に入らせたりするように、児童の進行状況を教師がもっとこまめに確認しておくべきだった。

進んで課題に取り組むために、少しハードルの高いゴールを設定したことは、とても効果的だった。

関心のある職業を軸にしたチーム編成は、意欲的な活動を進めていくのに有効だった。しかし、2名では、それぞれへの負担が大きすぎると感じた。場合によっては、3人以上で編成する方が望ましい。

タブレットでの情報収集の場面では、先に、書籍を使って情報収集をさせてから次にタブレット端末を利用させた。書籍で、ある程度何を調べたらいいのかがわかったことで、無限に広がるインターネットの情報から、必要な情報を早く集めることができた。しかし、興味だけで追究させると、小学生にふさわしくない文章や画像、動画に出会うこともある。そのため、学活等の学習で情報モラルについて並行して進めていかなければならない。

今回の学習を通して、児童は主体的にICT機器を利用していた。どのような場面で利用するか、また、利用したことでどういう効果があったのかを、身をもって感じ、ICT機器の活用方法を選択し、活用する力がついた。ICT機器は、児童の学習場面において、無限の力を秘めている。今後も児童自らがICT機器を使って学習したい、表現したいと思えるような授業を展開していきたい。

効果的だった
有効だった
こうすべきだった
こうするとさらに になると考える。

単元構成を工夫したことは、個人で学んだことをチームでの中に生かして話し合いを重ねることとで、必要な情報を取捨選択していきプレゼン資料の内容を伝えたいものに、厳選していくことができた。チームでの活動後に個人で活動したときも、チームで学んだことを生かして意欲的に課題解決を進めることができた。しかし、チームでの活動は想定していた以上に時間がかかったため、指導計画を考える際には、もう少し時間数を増やす必要がある。

将来の夢がまだ決まっていない他校の6年生に、仕事の魅力と実現するために今必要なことをプレゼンテーションするというゴールを明確にしたことは、伝えたい内容を膨大な調べた情報から厳選し、わかりやすく表現するのに役立っていた。

授業の初めに目標を掲げたことで、スムーズに活動を進めることができた。しかし、活動が進められなかったチームもあった。目標をしっかりと児童が理解しているか、児童の様子を見ながら授業を進めていかなければならないと感じた。また、まとめや振り返りの場面で、アクションシートを使って、自分たちのチームが今どこまでできていて、次は何をしなければならないのかを整理して学習を進めたことは、長い単元を進めていく上で、役立った。しかし、活動時間を確保しなかったため、アクションシートを使わないときも多かった。そのため、1時間何も進んでいないというチームもいくつか見られた。アクションシートを適宜使用していくべきであった。

「プレゼンのコツ一覧表」を配布したことは、どのようにプレゼンをすればいいのかがわかり、自分の発表に生かすだけでなく、他のチームの発表について、アドバイスをすることができていた。しかし、「プレゼンのコツ一覧表」の内容がプレゼンテーションの仕方に特化したものだったため、資料や発表の内容に注意を向ける児童はあまりいなかった。一覧表の中に、内容に関わる項目を入れてもよかった。

チームで1台のタブレットを持たせたことにより、チーム内で相互に教え合い、考えを交流し合うことで、学習内容を深めることができた。また、書いたり、要約したりすることが難しい児童も、写真を中心としたプレゼンテーションをつくり、自分の伝えたいことを意欲的に発表していた。

様々なICT機器をプレゼンテーションで活用することで、印象を残すことができることや様々な情報を提示することの利点を理解したとともに、紙媒体を活用することで情報を残すことができる利点に気づくこともできた。一方、プレゼンテーションでタブレットを使うことにこだわるあまり、内容や伝えたいことがはっきりしなかったグループもあった。

今回の学習を通して、児童は職業や自分の将来に対して関心をもつことができた。また、ICT機器を活用することで、学習前より自分の考えを表現することができた。ICT活用に関し

では、まだまだ機器を使うことに関心が強く、活用しきれていない面もある。これからは普通の授業から、必要に応じてICT機器を活用し、その有用性を学んだり、慣れ親しんだりすることで、児童が学習で、必要に応じて活用するためのICT活用を進めていくことが大切だと考える。